

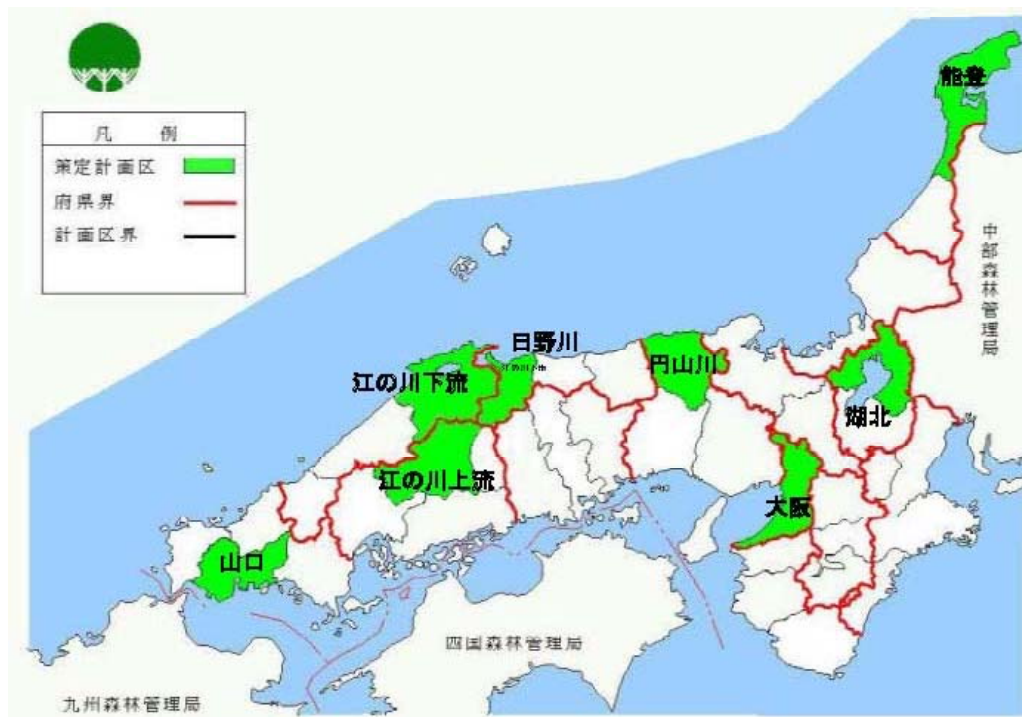
国有林の地域別の森林計画（平成21年度樹立）の概要

近畿中国森林管理局

I 対象となる森林計画区

近畿中国森林管理局では、管内の40森林計画区について、5年毎に「国有林の地域別の森林計画」を樹立しています。

平成21年度は、そのうち8森林計画区について、平成22年4月1日からの10年間の計画を樹立します。



○樹立する森林計画区

能登（石川県）、湖北（滋賀県）、大阪（大阪府）、円山川（兵庫県）日野川（鳥取県）、江の川下流（島根県）、江の川上流（広島県）、山口（山口県）

※ 上図緑色の森林計画区

※「国有林の地域別の森林計画」とは・・・

森林管理局長が、全国森林計画に即して、森林計画区毎に、国有林野及び公有林野等官行造林地の森林の整備及び保全に関する基本的な事項について、5年毎にたてる10年間の計画です。

具体的には、

- 伐採立木材積その他森林の立木竹の伐採に関すること
- 造林面積その他造林に関すること
- 間伐立木材積その他間伐及び保育に関すること
- 林道の開設その他林産物の搬出に関すること
- 保安施設に関すること

などについて計画をたてます。

Ⅱ 「森林・林業基本計画」、「全国森林計画」の考え方に即した計画の樹立

平成18年9月、利用可能な資源の充実、森林に対するニーズの多様化、木材の需要構造の変化と新たな動き等を踏まえ、①充実しつつある森林資源を活かしつつ、より長期的な視点に立って緑の社会資本である森林づくりを推進すること、②国産材の利用拡大を軸として林業・木材産業を再生し、国産材の復活を目指すことを基本方針とする新たな「森林・林業基本計画」が策定され、全国森林計画についても、同計画の考え方に即した計画が平成20年に策定されました。

このため、本計画においては、50年サイクルの森林づくりだけでなく、地域の特色やニーズに応じ、資源を利用しながら広葉樹林化や長伐期化等の多様な森林づくりを本格的に推進し、「100年先を見通した森林づくり」を目指すとともに、流域全体の保全のための治山対策を効果的に推進し、「流域の保全と災害による被害の軽減」を目指すこととしています。

1 100年先を見通した森林づくりの推進

— 多様な姿の森林への誘導 —

森林の多面的機能を持続的に発揮させ、地球環境の保全に貢献するため、様々なニーズに応じた将来の姿を描き、抜き伐り等の森林整備を計画的に推進していくこととしています。

具体的には、①大径材を生産する場合には、主伐の時期を通常の伐採年齢の2倍以上に引き上げ皆伐の頻度を低くする「**長伐期化**」を推進すること、②野生鳥獣の生息環境、景観、森林の総合利用に配慮する場合には、スギやヒノキなどの抜き伐りによる「**広葉樹林化、針広混交林化**」を推進すること、③土砂の流出を防ぐ場合には、スギやヒノキを部分的に伐採し、その後に植栽等を行うことによる「**複層林化**」を推進すること、④地形が緩やかで樹木の成長が良く積極的に木材生産を行う場合には、従来の施業を推進すること等に取り組みます。



[長伐期の森林]



[針広混交林]



[複層林]



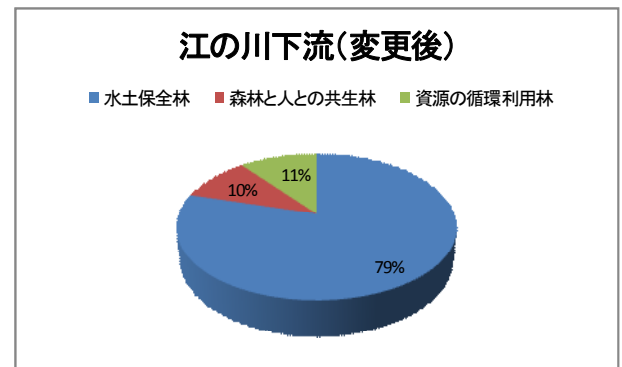
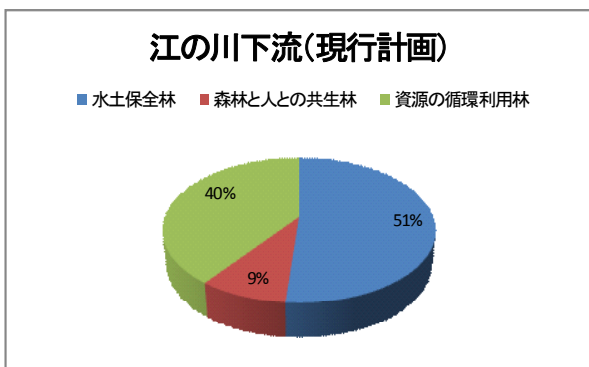
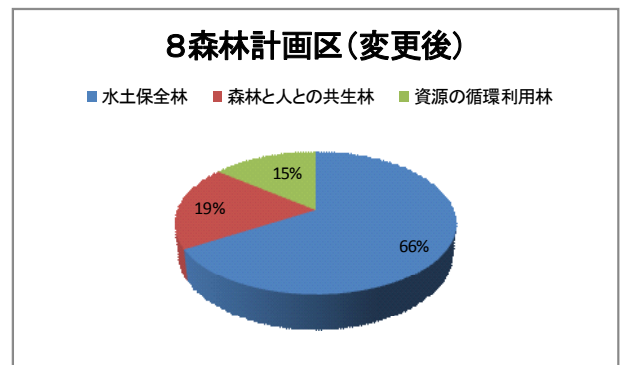
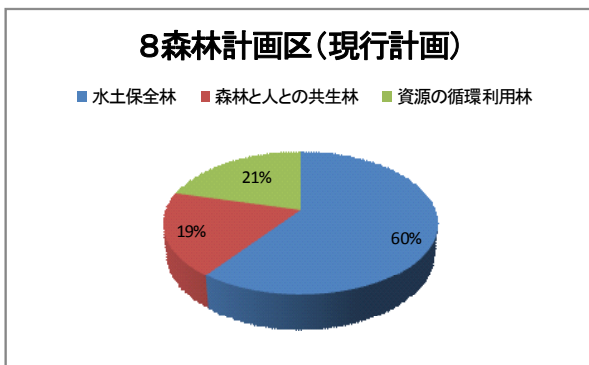
[木材生産林]

(1) 機能類型に応じた森林づくりの推進

森林が持つ多面的な機能を総合的かつ高度に発揮させるため、機能類型に応じた森林づくりを進めています。

新計画では、水源かん養機能を維持向上させるための保安林の指定等を踏まえ、機能類型区分の見直しを行い、江の川下流森林計画区において水源のかん養や山地災害の防止を重視する森林（水土保持林等）を 3,200ha増やしました。

[平成21年度樹立森林計画区の機能類型別森林面積の割合]



※機能類型とは

国有林野を管理するにあたり、個々の森林ごとに、重点的に発揮すべき機能に応じて区分した類型のことで、次の3つがあります。

- ①「**水土保持林**」 ……水源のかん養や山地災害の防止を重視します。
- ②「**森林と人との共生林**」 ……森林生態系の保全や生活環境の保全、森林空間の適切な利用を重視します。
- ③「**資源の循環利用林**」 ……木材等の生産を重視します。

(2) 多様な森林整備・保全の推進

ア) 公益的機能を重視した森林づくり

本年度樹立の8計画区では、「水土保持林」及び「森林と人との共生林」(いわゆる公益林)の面積が、全体の85%を占めています。

森林の有する公益的機能に効果的な森林の造成を目指すため、①長伐期林、②針広混交林、③複層林等の多様な森林づくりを積極的に推進します。

また、都市近郊や中山間などの里山については、地域住民と都市住民との連携による自然環境や生活環境の保全を重視した森林づくりを推進します。

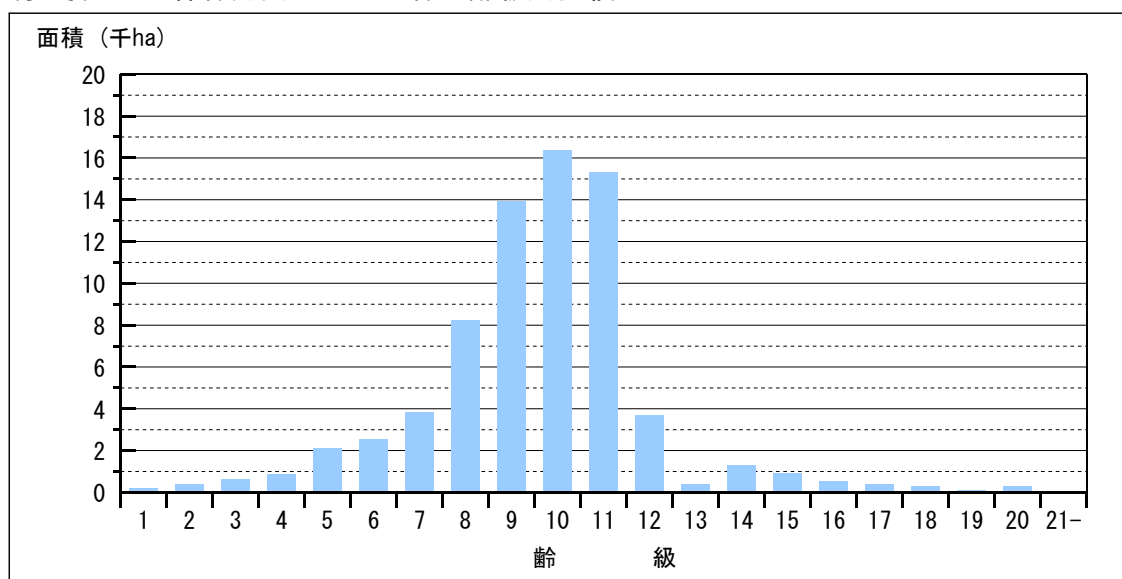
イ) 歴史を未来につなぐ森林づくり

世界文化遺産等歴史的木造建築物の修復用資材の供給に取り組むとともに、これらの建築物と一体となった森林環境の保全・造成を推進します。

ウ) 間伐の的確な実施による健全で多様な森林づくり

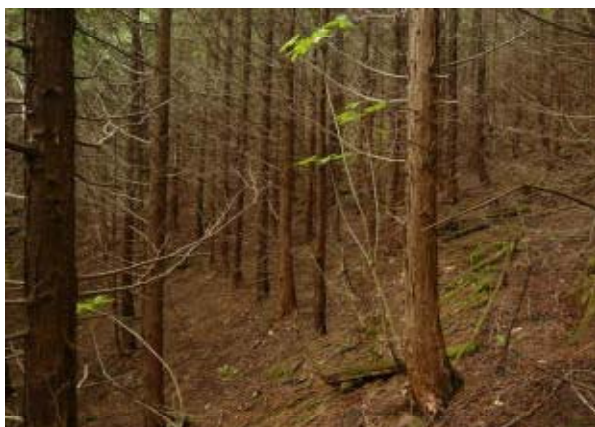
健全な森林の育成による二酸化炭素の吸収目標の達成及び多様な森林への誘導に必要な間伐を的確に実施します。

〔参考〕 8森林計画区の人工林の齢級別面積



間伐を実施することにより、良質な木材を育てることができると同時に、林内が明るくなるため、下層に植物が生えてきます。

このことにより、地表面がむき出しにならず、養分の豊富な土壌の流出が抑えられ、山地災害を防止し水資源をかん養する機能が向上するほか、豊かな生態系が形成され、健全で活力のある森林を造ることができます。



[要間伐林分]



[間伐実施後]

また、適時適切な間伐を実施するため、低コストで効果的な間伐ができる列状間伐を積極的に導入します。



[列状間伐実施後の森林]



[列状間伐実施後数年の森林]

(3) 効率的・効果的な森林整備の推進

ア) 新しい作業システムや技術の普及

間伐の実施及び多様な姿の森林への誘導に当たって、次のことに取り組みます。

- ① 路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト路網生産システムの普及・定着に努めます。

- ② 自然に生えてくる樹木を育てて森林をつくる(天然更新)技術の開発・普及に努めます。



[低コスト路網の作設状況]



[低コスト路網生産システムの現地検討会]

イ) 民有林との連携による森林整備の推進

森林吸収目標の達成に必要な間伐を的確に実施し、木材を安定的に供給していくため、民有林との共同施業団地の設定等に積極的に取り組みます。

3 国産材の復活

国産材の利用拡大を軸とした林業・木材産業の再生を実現するため、国有林と民有林が連携した間伐の生産性向上、需要者ニーズに対応した国産材の安定供給体制の整備を強力に推進します。

4 流域の保全と災害による被害の軽減

国民の安全・安心の確保を図るため、次のことに取り組みます。

- ① 豪雨や地震、流木などによる山地災害を防止し、被害を最小限にとどめるため、流域全体の保全や地域の安全性を確保するための治山施設を設置します。



[木材を利用した谷止工]

- ② 水源になっている保安林などでは、浸透・保水能力の高い土壌をもった森林の維持、造成を進めます。



[整備した保安林]

5 その他

多面的な機能を持つ森林を森林病虫害等の被害から守るため、間伐の的確な実施等により病虫害、鳥獣害、寒風害、山火事等の森林被害に対して抵抗性の高い森林を造成するとともに、カシノナガキクイムシ等の被害対策の実施や急増しているニホンジカ被害対策等を地域住民等との連携を図りながら、積極的に推進していきます。

また、野生鳥獣との共存にも配慮した森林づくりを進めていきます。

対 象 森 林 面 積

単位：百 ha

森林計画区	総面積	国有林、官行造林別		森 林 の 区 分		
		国有林野	官行造林地	水土保持林	森林と人との共生林	資源の循環利用林
能登	1	—	1	—	—	1
(石川県)	1	—	1	—	—	1
湖北	105	102	3	69	30	6
(滋賀県)	105	102	3	69	30	6
大阪	11	10	1	—	10	1
(大阪府)	11	10	1	—	10	1
円山川	62	43	19	35	8	19
(兵庫県)	62	43	19	35	8	19
日野川	61	57	4	22	34	5
(鳥取県)	61	57	4	22	34	5
<u>江の川下流</u>	<u>113</u>	104	<u>9</u>	<u>58</u>	<u>10</u>	<u>45</u>
<u>(島根県)</u>	<u>112</u>	104	<u>9</u>	<u>89</u>	<u>11</u>	<u>12</u>
<u>江の川上流</u>	<u>139</u>	124	<u>15</u>	108	7	<u>24</u>
<u>(広島県)</u>	<u>137</u>	124	<u>13</u>	108	7	<u>22</u>
山口	38	29	9	27	1	10
(山口県)	38	29	9	27	1	10
計	<u>530</u>	469	<u>61</u>	<u>319</u>	<u>100</u>	<u>111</u>
	<u>527</u>	469	<u>59</u>	<u>350</u>	<u>101</u>	<u>76</u>
[差引]	[-3]	[0]	[-3]	[31]	[1]	[-35]

注：上段は現行計画、下段は新計画。

注：四捨五入により計は一致しない場合がある。

經常樹立を行う森林計画区の計画量 (8森林計画区)

流域名	伐採立木材積 (千m ³)									造林面積 (ha)		林道 (km)		治山
	主伐			間伐			合計			人工造林	天然更新	開設	拡張	治山事業 施工地区数
	国有林	官行造林	計	国有林	官行造林	計	国有林	官行造林	計	国有林		国有林		国有林
能登	—	7	7	—	—	—	—	7	7	—	—	—	—	—
湖北	3	30	33	44	—	44	47	30	77	11	0	—	4	28
大阪	5	15	20	30	0	30	35	15	50	6	27	—	3	8
円山川	2	153	155	58	12	70	60	165	225	2	7	—	—	2
日野川	2	45	47	44	6	50	46	51	97	2		4	—	23
江の川下流	55	130	185	219	1	220	273	131	405	159	—	1	1	18
江の川上流	76	41	117	402	28	430	478	69	547	127	25	6	—	12
山口	26	66	92	100	25	125	126	91	217	62	7	—	1	14
計	169	487	656	897	72	969	1065	559	1625	369	66	11	9	106

注：計は端数の関係で合致しない場合がある。

現行計画と新計画との対比

(1) 伐採立木材積

単位：千m³

流域名	主 伐		間 伐		総 数	
	現行計画	新 計 画	現行計画	新 計 画	現行計画	新 計 画
能登	8	7	1	0	9	7
湖北	44	33	17	44	61	77
大阪	12	20	27	30	39	50
円山川	282	155	37	70	319	225
日野川	31	47	42	50	73	97
江の川下流	238	185	259	220	497	405
江の川上流	287	117	331	430	618	547
山口	153	92	68	125	221	217
計	1055	656	782	969	1837	1625

(2) 造林面積

単位：ha

流域名	人工造林		天然更新	
	現行計画	新 計 画	現行計画	新 計 画
能登	—	—	—	—
湖北	6	11	18	0
大阪	13	6	1	27
円山川	66	2	80	7
日野川	29	2	104	0
江の川下流	188	159	143	—
江の川上流	644	127	235	25
山口	161	62	2	7
計	1107	369	583	66

(3) 林道新設

単位：km

流域名	現行計画	新 計 画
能登	—	—
湖北	38	38
大阪	—	—
円山川	3	—
日野川	3	4
江の川下流	27	1
江の川上流	28	6
山口	2	—
計	101	49

(4) 治山事業量

単位：施工地区数

流域名	現行計画	新 計 画
能登	—	—
湖北	8	28
大阪	—	8
円山川	2	2
日野川	6	23
江の川下流	35	18
江の川上流	28	12
山口	14	14
計	93	106